

指針第 1 号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,280	t-CO ₂
① （温を 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素換 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		1,280

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総 排 出 量	1,280	t-CO ₂	1,267	t-CO ₂	1.0

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和 9 年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂	

（2）目標設定の考え方

平成24年度に大規模な省CO₂改修プロジェクトが完了し、既に大幅な削減努力を実施済みであるため、前回計画時よりも目標削減率は縮小している。
かつ、基準年度はテナントの空室成約が年度中に進んだ年となっており、年度の開始から満室状態で迎えることを想定する以降3年の計画期間においては、削減率としては縮小の見込みとなる。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第 1 号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
各設備のチューニング	最適な設備稼働のための検証・分析を行う。	月ごとに定期的な検証・分析を実施中。
気象条件の変動によるエネルギー使用量の低減	ビル空調の起動時間や温度設定を日々調整することによって、ビル内環境を整えとともにエネルギー使用量の低減を図る。 (特に真夏日や真冬日が継続する期間)	ビル空調の起動時間は外気温に応じて7～8時の間で調整中。 エレベーターかご内空調や各フロアのトイレ内空調など、時間に応じて設定温度変更や一時停止を実施中。
省エネに関するテナント啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・専用部内照明の照度調整およびこまめな消灯の呼びかけ ・専用部内個別空調のこまめな温度設定の変更の呼びかけ 	新規テナント入居時や既存テナント往訪時に照明や空調の省エネに関し説明を実施中。

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

入居テナントに対してグリーン電力の活用を周知を行う。 ※2025年度においては所有者 (2社) およびテナント2社が活用している。
--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--